

2019年度 第1回阿波おどり実行委員会議事録

開催日時 平成31年4月10日(水) 午後3時～

開催場所 徳島市中央公民館3階 302会議室

出席者 委員7名 事務局6名 事業体5名

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 出席者紹介
- 4 議題1 阿波おどりの実施方針について

【事業体】

当事業体として、選定委員会で提案をした基本姿勢から説明をしたいと思います。

この阿波おどりという事業を運営するにあたり、4つの基本姿勢を掲げた。

まず第1に世界に発信する阿波おどり。伝統芸能と長い歴史を持つ阿波おどりを世界と未来へ伝えていく日本文化、資源と認識し世界へ発信し、運営体制や事業内容の整備と共にインバウンドの獲得に向けた事業展開を行いたい。

2番目として、みんなが楽しめる阿波おどり。祭りの本質を考え、関わる全ての方々、踊り手、観客、スタッフ、全ての方が楽しめる環境と事業作りをしたいと考えている。

3番目として、安全安心快適な環境の確保。見る側と踊り手の側、それぞれの側の環境を整えて快適に楽しんでいただき次年度以降のリピーター獲得へと繋げていきたいと考えている。

4番目として、事業の公平性、透明性の確保と収益性を踏まえた運営体制を構築。事業状況をクリアにし、誠実かつ収益性を重視した運営を行いたいと考えている。

これらの4つの基本姿勢を大切に責任を持ち、これまで継承してきた伝統芸能としての阿波おどりにさらなる賑わいを作り出し、日本から世界へ、そして未来へと繋げていこうと考えている。

具体的な業務内容について、事業開始後の初年度は要求水準書に基づいて確実な事業実施を約束したい。前売り券の販売、当日券の販売業務、各ホール、演舞場の円滑な運営、総合案内所の対応、チラシやガイド作製、広告代理業務、当日のシャトルバス、駐車場の運営警備を達成し、また、次年度の事業計画書作成に向けて、アンケート等のヒアリング

による、観客や踊り手のニーズの把握に努めたい。

提案型の業務として、初年度の経験を踏まえて次年度以降には「行ってみたい阿波おどり」、「また来たい阿波おどり」をテーマに来場者の意欲向上とリピーターの獲得に繋がる事業運営を考えている。これから紹介する中で可能なものは初年度から実施していきたいと考えている。

踊りに関わる部分ですが、前夜祭をプロフェッショナルによる舞台演出をしようと考えている。来場者へさらなる魅せる阿波おどりの舞台作り提供するために、私たちがこれまでに携わってきた舞台や演出のスタッフと一緒に前夜祭作りができれば楽しいことになるのではないかと考えている。

次に新たなるにわか連の企画も検討しており、現在2会場で実施されているものを3会場へ増やし、にわか連による混雑の緩和とまた踊り手、来場者の安全確保並びに祭り参加者の増加を目指していきたい。2番目に「ワールド連」として、海外観光客も参加できるようにわか連を提案したい。募集アナウンス、踊りのレッスン、多言語対応し、より広く外国人の方々に阿波おどりを体験していただきたいと考えている。3番目として、法被の販売も考えており、これまで実施されてきた貸出用ハッピーに加え、販売用法被を作製し、それを着用して参加を推進しようと考えている。さらに新たな連、「ふるさと連」というものを創立しようと考えている。過去の踊り連の経験者や連に未所属の方々、新たな連の創立の支援を行い、踊り手の裾野を広げることで文化としての継承を図っていこうと考えている。

それから、少しでもブラッシュアップをしようと考えている。1番目としてホームページの充実化として、公式ホームページに全ての情報を集約し、確実な情報発信源となるようなホームページ作りを行いたいと考えている。多言語対応、訴求力のあるデザインに加え丁寧な事業内容の案内をしたいと考えている。各連の紹介や出演時間の掲載、開催期間中の情報としてのシャトルバス、駐車場の混雑運行案内といったことの掲載を予定している。また可能であれば、協賛企業と相互にリンクさせることで、閲覧者流入の拡大を目指していきたい。将来的には過去の開催情報や連の紹介を蓄積していくことで、データベースとしての機能も果たしていければという風に考えている。

2番目として、チケット販売の充実化を図りたい。インターネット販売の充実策として、多言語対応のほか、座席割の案内など来場者目線に立ったホームページ作りをしていきたい。実行委員会と協議にもよるが、対面でのチケット販売も実現していこうと思っている。開催準備室にチケットシステムを導入することで実現可能となるのではないかと考えている。

3番目に安全管理について、安全安心だけでなく、踊り手、来場者の快適性を目指しており、関連行政との連携体制を構築し、各種マニュアル策定も多言語対応できる体制をとり、緊急事態発生時用に避難場所の設定や看板、地図の掲示なども多言語にて作製し来場者への周知も徹底する。

その他追加策として、これは将来を見据えてのことにはなるが、海外観光客対応として外国語マニュアル作成を考えており、指差しシートなどアルバイトでも平易に対応できるものにする事で、スタッフの負担軽減とそれによる案内機能の拡充を図りたい。2番目にどんな世代、状況の方にも安心して参加いただける環境作りとして、授乳、おむつ交換のスペーステントの設置をする。必要であれば警備員も配置し、安全に過ごしていただけるよう配慮したい。3番目として、公式グッズの作製販売も行っていきたいと考えており、法被、手拭、扇子、阿波おどりの記念になるようなものを作製し、収益の確保と事業宣伝ツールとしても実施していきたいと考えている。

チケット料金について、1つ目としてリピーターチケットの導入を検討しており、前日のチケットをお持ちの方で当日券購入時に割引販売もしくは特典付与などで購買意欲を促進しようと考えている。2番目として自由席エリアのフリーパスの販売も検討しており、複数会場を行き来できるリストバンド型のフリーパスのチケットとして利用する提案である。3番目として、会場ごとのダイナミックプライシングを考えることも可能ではないかと思っており、今回から市役所前演舞場の2部の料金設定が変更されるのと同様に他会場でも人気の演舞場、公演に合わせて価格設定も変更するといった販売方法も視野に入れている。4番目として、日中の過ごし方をこちらから提案を行い、街全体の回遊性を確保できるよう、観光施設等とのセット券の販売も考えている。5番目として、協賛企業獲得に合わせた新たな席種、VIPシートなども検討している。阿波おどりの文化的価値を向上させることで、プレミアム体験としての踊り見物や踊りへの参加にも価値が上がるのではないのではないかと考えている。また連携のイベントとして、こうした阿波おどり事業の整備、ブラッシュアップを図ることで徳島県への注目度を集めるのとともに将来的には阿波おどりは日本、徳島の魅力発信の場所となるよう県内のイベントの連動開催も実施していきたい。株式会社ネオビエントが運営する「とくしまマルシェ」を阿波おどりの期間中にも開催し、全国、海外へ日本の徳島を広く周知していきたい。そして、来年はオリンピックイヤーであり、特に重要だと考えているのが、インバウンド誘致である。まず、2020年には東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されるが、大会期間の前後に国内に滞在するであろう外国人観光客をいかに徳島に誘致できるのかということが課題だと思っている。阿波おどりの期間はオリンピックとパラリンピックのちょうど真中の時期なので、この時期に観光客を集めることを全力で傾注して考えている。インバウンド誘致業務を支える旅行業者各社の協力の基で海外へ日本の徳島を情報発信していくことが東京オリンピックをきっかけに2021年に開催されるワールドマスターズ関西やさらにその先2025年の大阪万博を見据えて、徳島方面への誘客に尽力していこうと考えている。阿波おどりの事業を徳島だけでなく、日本の財産、日本の観光資源作りだと認識しており、文化として次世代へ繋ぐ持続可能な阿波おどりから訪れたい日本、徳島へ飛躍できるよう尽力していきたい。

【B委員】

阿波おどり期間中の街の安全安心快適な環境作りとあるが、実行委員会としては非常に大切なことだと考えている。昨年は一つ間違えば大変な事故になっていたであろうということがあったため、そういったことが絶対にないような体制にしていきたい。

【A委員】

徳島で生まれ育った者にとってやはり田舎の盆踊りの味わいを残していただきたいと思う。隣のよさこい祭りなどを拝見すると、非常にスマートであるが、スマートが故に逆に味わいが無い、やはり阿波おどりの方がいいと感じる。泥臭さあるいは盆踊りだという味わいを残した企画にしていきたい。

【C委員】

今年度のスケジュール感について、これから事業内容等を実行委員会で知ることができるのか、どれぐらいのイメージで計画を進めていけるところまでできているのか。

内容に関して、A委員からの意見もあったが、阿波おどりの最大の魅力というのは栈敷だけではなく、色々なところで多くの人たち、色々な連の人たちが踊られていて、街全体の熱気、これが最大の魅力であると思っている。次年度以降に関することになるかもしれないが、自由エリアのフリーパス等の金額設定をどのようにするのか、今年にどこまで進められるのかをお伺いしたい。

【事業体】

現況で言えば、やっと契約書が結べたところである。開催準備室を立ち上げるという約束しており、株式会社ネオビエント内に開催準備室を作り、株式会社ネオビエントの従業員の方を専任で準備室員として配置して勤務を開始したところである。まもなく電話の開設ができて、事務方の準備ができてくるようになる。今後の進め方について、実行委員会事務局と定例的な打ち合わせを週に1回程度行っていきたいと考えており、実行委員会が月に1回程度開催されれば、その中で資料提供をしながら報告していきたいと考えている。

チケット販売の方法については、正直言うと私自身が4回しか阿波おどり来ていない。最近では東大連に参加して2回ほど来ているが、それ以外はもうずいぶん昔に2回ほど来ているだけなので、事情がわからないのはもちろん正直に申し上げた上で、その中で地域の方や実行委員会事務局と丁寧に相談しながら料金体系を決めていきたいと考えている。

今年の阿波おどりで行いたいことは、安全に堅実に阿波おどりを実行できるということが第一だと考えている。次に、いかにチケットを広く多くの方々に周知して売っていくかということが重要になるのではないかと考えている。例年だと、一般に売り出すチケットが非常に少ないと聞いている。チケットの売り方もぴあや楽天など、何社かに限られたところで販売していたので、お客様がチケットを引き取るのに今回はセブンイレブンでしか引き取れなかった、ファミリーマートでしか引き取れなかったなど地域によってはファミリーマートだけしかない地域、セブンイレブンしかない地域、ローソンしかない地域、

それぞれあると思うので、その辺も全チケットディーラーとお付き合いがあるので、そこにある程度チケットを預けて、お客様がいろんなところでチケットが引き取れるようにしたい。インターネット対応だけでなく買い方も例えば電話による対応も行いたいと考えている。インターネット対応だけだとどうしてもチケットを取るわずらわしき、抵抗を感じる方もいると思うので、人による対応をしていけないかと考えている。それと選定委員会で、はがきで対応することは考えていないかという意見が出たが、ぜひとも対応を考えていきたいと思っている。チケットを買われる方、全国どこのコンビニでも引き取れるような体制を初年度から実施していければと考えている。

風土感を残してほしいという意見についても、十分理解しており、日本のお祭りの中ですぐに参加できるというお祭りはおそらく阿波おどりだけだと思う。そこが逆に土臭さや風土感が出るころなのだと考えているので、参加しやすい環境を作るための努力は今後もしていこうと考えている。

【委員長】

今ここでどれだけ実現できるかは、まだその端緒についたばかりなので難しいと思う。

この事業計画の内容のリストバンド型のチケット販売やVIP席の新規座席の検討など、皆がこれには目を輝かせて話を聞いていただけだと思うので、ぜひ検討をお願いしたいと思う。

議題以外にも事業体に意見や質問はないか。

(意見なし)

今後の進め方について実行委員会あるいは事業者の方との懇談内容の進め方について実行委員会事務局から提案があれば説明していただきたいと思う。

【事務局】

今回阿波おどり事業を民間委託するにあたり、主催者である実行委員会と事業体が常に連携し、その意見を業務に反映する必要があるため、要求水準書の中では委託事業者は4月から9月までの間少なくとも毎月1回以上、実行委員会の企画運営等に関する意見を反映させるために必要な協議の場を設けるように規定したところである。この協議の場は正式な実行委員会として開催するものではないが、業務の進捗状況や事業者が直面している課題などを把握し、阿波おどりの成功に向けて議論が円滑に進むよう毎月1回以上開催したいと思う。また事務的な内容が多くなると考えているので、会議は基本的には非公開と考えている。協議項目や日程等については、委員長と相談させていただき、委員と事業体にお知らせしたいと考えている。

【委員長】

今事務局から説明があったとおり、今後は月1回以上の実行委員会と事業者との協議の場でゴールである8月12日を目指して走り続けたいと思う。

以上を持って2019年度第1回阿波おどり実行委員会を終了とする。